



教員特別研究（重点研究）成果報告書 | 配分研究費：655千円（令和4年度）

## レオナルド理想都市模型をめぐる学際的基礎研究

### 目的・概要

本研究の目的は、2021年に本学に寄贈された「レオナルド・ダ・ヴィンチ理想都市模型」の意義と価値を明らかにすることである。本研究は、模型のオリジナルとレプリカ、模型の成立過程、日本での展示履歴、構想の背景、驚異的な先駆性など、模型をめぐる複数の謎を学際的に解明しようとするものである。また、展覧会による模型の一般公開やシンポジウムの開催、さらに三菱財団人文科学研究助成との連動も含め、研究を遂行した。

### 期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日

### 研究担当者

デザイン学部	デザイン学科	准教授	松田	達（研究代表者）
デザイン学部	デザイン学科	准教授	天内	大樹
文化政策学部	芸術文化学科	准教授	田中	裕二
文化政策学部	芸術文化学科	教授	立入	正之

### スケジュール

令和4年4月19日  
令和4年8月30日  
令和4年11月17日～12月11日  
令和4年11月27日  
令和5年3月30日

レオナルド理想都市模型調査  
レオナルド理想都市模型展ポスターコンペ公開審査  
レオナルド理想都市模型展  
レオナルド理想都市模型展シンポジウム  
レオナルド理想都市模型展シンポジウム文字起こし

### 研究成果

本研究の大きな成果は、2022年秋にレオナルド・ダ・ヴィンチ理想都市模型展及びシンポジウム（長尾重武、池上英洋、五十嵐太郎、コメンテーター：高田和文、天内大樹、モデレーター：松田達）を開催し、その過程で「模型の謎」の大部分を明らかにしたこと、国内の研究者らのネットワークを構築したこと、一般の方々に模型をはじめ関連する研究内容を公開できたことである。複数の新聞や専門誌サイトにも展覧会は紹介され、またポスターコンペ開催は本学学生のデザイン力強化にもつながった。

具体的な研究成果として、以下などが挙げられる。「レオナルド・ダ・ヴィンチ展の受容」（田中）、「建築のモダンムーブメントと模型」（天内）、「レオナルドの発明と建築」（立入）、「ソルダティエニは、レオナルドの構想をいかにして模型化したのか？」「ルネサンスの理想都市 | パルマノヴァについて」（松田）[以上、展覧会]、AMANA, “Positions of Models in the Architecture”（本学紀要）、天内「パネルディスカッション「建築と模型」」（『建築雑誌』）、松田「感染症に立ち向かい、20世紀を先取りした都市計画」（『地中海学会月報』）、松田「都市における超高層建築とその公共性をめぐって」（『建設労働のひろば』）。さらに、レオナルド理想都市模型のCG、映像、VR動画、AR解説も制作した。（松田）



### 今後の研究成果の還元方法

本研究の成果は、2つの方向で還元する。ひとつは学術的還元である。レオナルドの理想都市模型に関して明らかになった事実を、日本建築学会など各種の学会やメディアを通し、記事や論文として発表する。特に本研究は、三菱財団人文科学研究で助成を受けた別研究とも内容的に連動しており、幅広い学術的な成果の展開が見込まれる。

もうひとつは教育的還元である。理想都市模型の映像には、様々なデザイン技術が盛り込まれている。実測をもとに3Dモデリングを行い、レンダリング及び映像化を行った。さらには映像制作アプリケーションで編集し、VR化、AR化も行い、XRの先駆けともなった。こうしたコンピューテーショナルなデザイン技術を、授業等を通して学生に伝達していく。